

認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会だより

“友よ”

リーバー フロイント

Lieber Freund

発行：認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会事務局

TEL 088-686-9999 FAX 088-686-9994

http://www.naruto-9.com/ E-mail: kanki@naruto-9.com

vol.14

2014年6月30日発行



第九アジア初演の6月1日、609名が心ひとつに歌う喜び

“鳴門市・リュネブルク市姉妹都市盟約締結40周年記念”第33回「第九」交響曲演奏会が、平成26年6月1日に開催されました。出演された皆様は、96年前に鳴門市板東俘虜収容所において、アジアで初めて「第九」が演奏された丁度同じ日に舞台に立てる喜びを深く感じながら演奏されたのではないのでしょうか？

舞台に勢ぞろいした609名（県内180名。県外は北海道から鹿児島までと、アメリカ・ロサンゼルスよりご参加の49団体429名）の合唱団員と80余名のオーケストラ、オーディションで選ばれた4名のソリスト、エネルギッシュできめ細やかなご指導の指揮者・田久保裕一氏によって、満席のお客様に届けられた自由と愛の交響曲は、文化会館を感動の渦に巻き込んで無事終了いたしました。

今年は、車椅子で参加された方の受け入れにも、舞台の方が万全の準備をしてくださいました。これからも「第九」を愛する方ならば、健常者障害者の区別なく皆で支え合い素晴らしい舞台運営が出来ますようにと祈っています。

「鳴門第九」合唱団員の皆様は、頃安利秀先生を中心とした先生方の熱いご指導のもと、昨年11月より終始熱心に練習に参加され、「第九」の感動を観客の皆様にお伝えしようと練習を重ねて参りました。



大塚国際美術館での公演も回数を重ね、この日を楽しみにするファンも

また、この大舞台での成功の陰で、今年も大勢のボランティアの皆様が裏方として手伝ってくださいました。いつも資金面で応援してくださる賛助会員の皆様、観客席を埋めつくして大拍手を送ってくださる方々……これらの大きな力が「鳴門第九」の力となって33回の歩みを続けることが出来たことに心より感謝申し上げます。

大塚国際美術館を舞台に「西洋アートを楽しむ一日」と銘打って、千円の低額で開催され、始まってより6年目となる「西洋名画と音楽の饗宴！」の行事も、多くのファンの方が毎年心待ちにしてくださっています。第4回となる「美術館でなるとの第九」は、バチカンのシステリーナ礼拝堂を再現したホールで、会場一杯の600人以上の観客が陶板壁画を眺めながら演奏を楽しむという贅沢な演奏会となりました。大塚国際美術館様のご協力に心よりお礼申し上げます。

「2018年アジア初演百周年へのカウントダウンがはじまる——」とプログラムのサブタイトルにも書かれていますように、いよいよ4年後には初演百周年を迎えます。

泉 理彦鳴門市長様が、「……百周年を大きな契機として、世界で一つ、鳴門にしかない歴史的背景をもつ“なると第九”をブランド化し、世界に向けて発信しようと『アジア初演“なると第九”ブランド化プロジェクト』を始動したところ……」と、百周年に向かった「鳴門第九」への熱い意気込みを語ってくださいしています。会員の皆様にもますますのご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、「鳴門第九演奏会」に第1回より昨年まで連続出演され、鳴門第九の理事としても第九の発展のために大きな功績を挙げられた平田義一様が、6月9日にご病気のためご逝去されました。

関係の皆様とともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会

理事長 大塚 道子）



初の車椅子での参加者、吉田真梨子さん。充分な受け入れ態勢をとったつもりでも、いざ動き出すと気づかされることが多かった

今年の指揮者は田久保先生。小中学校の教員の経験がある田久保先生は、指示がとてもわかりやすく、合唱団はたちまちひきつけられ、集中してレッスン・本番にのぞむことができました。先生がまとめられた第九演奏の注意事項、通称「田久保メモ」も役立ちました。

“全員でひとつになって音楽をつくろう”という田久保先生の思いにつつまれ、ステージも客席も一体となって、あたたかい音楽を奏でられたと実感しています。

感動味わった「第九」演奏会

鳴門市 来福清之 さん

1日、鳴門市文化会館へ第33回ベートーヴェン「第九」交響曲演奏会を聴きに行った。生まれて以来1回あるかないかの感動だった。合唱団と指揮者のタクトの下、素晴らしい演奏。あんなにすがすがしい気持ちになったのは初めてだ。車いすの女性も参加され、殊のほか良かった。一度あの中に入って歌いたいとも思った。それは無理としても、やっぱり来てよかった。

毎日、生活している中での練習への参加。家族の理解も必要だろうし、大変だと感じた。また裏方さんの苦労も大変だっただろう。この年齢になると物事に熱中することがなくなり、平々凡々の毎日を送っている。が、やっぱりあのような中にいると、それだけで何か張り合いが出てきそうな気がする。会場全体が一体となったの拍手、涙。私も何度かハンカチを使った。

演奏会の最後に花束贈呈があった。指揮者が自分の花を車いすの女性に手渡したシーンは、今思い出しても目頭が熱くなった。また市長が「今年33歳になられた皆さん、立ってください」とおっしゃった。34回目もきっとこの方々は来られると思う。素晴らしい思いつきだ。私も来年また聴きに行きたい。

(徳島新聞 読者の手紙より ※ご本人の了承を得て転載)

すべての人類は兄弟となる——シラーの詩を実感することのできた今年の「第九」。毎年同じ譜面を歌うのに、毎年新しい魅力にふれられるのが第九の奥の深さですね。

「鳴門第九」に参加して

はばたけ堺!合唱団 吉田真梨子 さん

今回「はばたけ堺!合唱団」の一員として、初めて車椅子で参加しました。今年の3月に同合唱団に所属し、鳴門第九が6月1日に行われることを知り参加を決意しました。

参加が決定してから徳島新聞の取材にとり上げていただくことになり「鳴門第九を歌う会」を知りました。

皆さまのおかげで、歌う時、指揮が見えやすいように、一段高く、また一番前に座席を設けていただいたり、入退場の時には必ず誘導して下さり、舞台袖で待っている時には緊張しないように声をかけていただき、着替えも特別に更衣室を用意してくださったりと、様々な配慮をしていただいたおかげで、楽しく歌声を響かせることができました。

また、今回徳島新聞と、朝日新聞に取り上げていただいたことで、鳴門第九参加者の方からも声をかけてもらい、たくさんの方々の目にも留まり、来年は障害がある人も健常者の人も一緒に第九を楽しめる輪が広がるように思いました。

今回は、高速バスで鳴門まで行きましたが、バスの乗降時に「はばたけ堺!合唱団」の皆さんに助けられました。このように、たくさんの輪が繋がったことによって、歓喜の歌を壮大に歌うことができましたと思います。

本当にありがとうございました。

交流会でお母様といっしょに元気に阿波おどりを踊る吉田真梨子さん



くらしの中で第九を応援! WAONカード発売



鳴門市とイオン提携で、**なると第九WAONカード**が誕生しました。全国の加盟店で利用可能な電子マネーカードで、このカードで支払った利用金額の0.1%が、鳴門市の

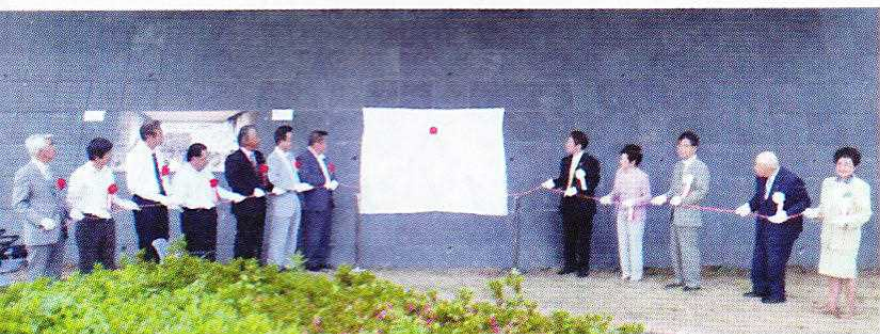
「なると第九」ブランド化推進事業に寄付される仕組み。表面にはドイツ館、裏面には第九演奏会の写真があしらわれた、すてきなデザインです。

記念陶板がついに完成！ 除幕式は第九の調べとともに

昨年から制作していた「第九アジア初演95周年記念陶板」がこのほど完成、5月30日、華々しく除幕式を行いました。全日本「第九を歌う会」連合会の村津忠久副会長、高橋隆子副会長も遠くからかけつけられ、テープカットの後、合唱団約50名による歓喜の歌声で完成を祝いました。

陶板は鳴門市ドイツ館のベートーヴェン像の近く、1998年制作の陶板の横に設置されました。除幕式の後には陶板をとりかこんで、「あ、私はここ!」「名前があった」とワイワイ……。

演奏会前日の5月31日には、記念陶板を中心に、ドイツ村公園、慰霊碑、ドイツ館などを巡る第12回ワークショップが開かれ、好評を博しました。



幕で覆われた陶板。さあテープカット!



ロサンゼルス新年第九演奏会に参加して

平成26年1月12日、ロサンゼルス・アラタニ劇場は、日系市民やアメリカ市民で埋めつくされ、アメリカでは初めての鳴門第九メンバーも加わって新年第九演奏会が盛大に開催されました。

第32回鳴門第九演奏会に参加されたL.A.Daiku代表の棚野氏から「ロスで歌いませんか」との招待を受け、亀井副理事長を団長として鳴門・札幌・神奈川・鹿児島から13名が参加しました。

1月10日、全員関西空港に集合、同日ロサンゼルス空港へ無事到着。1月11日、早速リハーサル開始、この時、私たちがびっくりしたのが鳴門の公募ソリスト、熊坂真里さんがロスの新年第九演奏会に出演し、第九とともに第1部に日本の歌曲を立派に演奏されたことでした。前年の第2回第九演奏会の時も鳴門のソリスト諸田広美さんが出演したそうです。このようにロスの新年第九演奏会に



鳴門の公募ソリストが採用され、アメリカで活躍をしていたのです。鳴門「第九」が若手音楽家の活躍の場を提供して若い音楽家の育成に寄与するというNPO法人の目的が達成されていることに誇りと喜びとL.A.Daikuへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。

演奏会後はゆっくりと観光もでき、本当に楽しい7日間の旅でした。L.A.Daikuの心のこもったおもてなしに感謝し、1月16日全員元気に帰国しました。亀井団長様本当にお世話になりました。有難うございました。(浅野司郎 記)

演奏会後はゆっくりと観光もでき、本当に楽しい7日間の旅でした。L.A.Daikuの心のこもったおもてなしに感謝し、1月16日全員元気に帰国しました。亀井団長様本当にお世話になりました。有難うございました。(浅野司郎 記)

鳴門第九の大黒柱、平田義一先生を悼んで

平成26年6月9日早朝、平田義一先生(94歳)が静かに息を引き取られました。

先生は、鳴門「第九」を歌う会合唱団員の憧れであり、お手本でした。

クラシックが大好きな先生は、鳴門第九の創設から積極的に関われ、ご尽力される一方、ご自身も合唱団の一員として初回から32回の第九演奏会まで欠かすことなくご出演され、本年第33回第九演奏会にも出演への意欲を持たれていました。演奏会直前、病院に入院されましたが私達の見舞いにも元気に応じていただき、「全国から参加される皆様に満足していただくよう、しっかり頑張りたい。皆さんならきっと大丈夫」と激励してくださいました。お元気な先生のお姿に私達は安心して、きっと今年の第九演奏会に出演していただけると信じていました。

しかし、演奏会が終わった6月9日の早朝、奥様から

「最後まで頑張ってくれたが、静かにあの世に旅立ちました」とのご報告を受け、突然の訃報と鳴門「第九」の大黒柱、平田先生の存在の大きさを実感し、言葉を失いました。

先生の最後の御言葉どおり、先生をお手本として、ご意志を継ぎ、鳴門「第九」を歌う会の会員一同、一生懸命鳴門「第九」の発展と全国の第九合唱団の皆様が「第九のふるさと」として、いついつまでもご参加いただけるよう頑張りたい所存でございます。

平田義一先生の安らかなご冥福をお祈り申し上げますとともに、最後まで私たちをお導きいただいた感謝の気持ちを込めて追悼のことばとさせていただきます。

先生! 天国から私たちを守り、お導きください。お願いいたします。



活動の記録

第九を通した音楽文化の普及、地域や全国の仲間との交流も私たちの大事な活動です。今年の活動の中から主なものをご紹介します。

県内研修

❖平成25年度総会 & 研修会

2013. 7/28 於：鳴門市ドイツ館

総会の後は、鳴門第九のみならず最近めざましい活躍のピアニスト・平賀理絵さんによる第1回研修会「ピアノの調べ」を開催。「愛の夢」「リゴレット・パラフレーズ」など平賀さん十八番のリストの作品から日本の四季メドレーまでバラエティに富んだプログラムで観客を魅了しました。演奏の間のおしゃべりも飾らない人柄がにじみ出ていましたね。



県外研修

❖四国第九コンサート in 三好市 vol. 3に参加

2013. 10/6 於：三好市池田総合体育館

❖2013「かがわ第九」演奏会に参加

2013. 11/10 於：香川県高松市・アルファあなぶきホール

❖サントリー1万人の第九に参加

2013. 12/1 於：大阪府・大阪城ホール



淀川工科高等学校吹奏楽部や佐渡裕さん率いるスーパーキッズ・オーケストラも参加した重厚なオケ、東北からの中継も加わった合唱団で壮大な第九。仲間由紀恵さんによるシラーの詩の朗読、加山雄三さんとのジョイントなどもりだくさんでした。数年ぶりの参加でしたが、やっぱり1万人の第九はいいですね！

❖ロサンゼルス新年第九演奏会に参加

2014. 1/12 於：ロサンゼルス・アラタニ劇場

❖第5回阿南第九の会 定期演奏会

“新春は阿南で第九を!!”に参加

2014. 1/12 於：阿南市情報文化センター・コスモホール

その他行事

❖「仲間と歌おう！ 歓喜の歌」発表会

2014. 2/21 於：板東小学校・体育館

次世代育成・初演ブランド化推進事業の一環として参加。板東幼稚園年長、板東小学校 6年生、大麻中学校 1年生の皆さんとともに第4楽章(抜粋)を歌いました。ひたむきな若い歌声に感動！指揮：頃安利秀 ソプラノ：真鍋美恵 アルト：酒井美里 テノール：市岡雅明 バス：清水一貴 ピアノ：平賀理絵



コーラス9

❖第九の里コンサート 2013. 8/4 於：鳴門市ドイツ館

「遠い空の下で」「別れ」「第九」ほかを歌いました。指揮：大井美弥子 ピアノ：向井真紀子

❖第20回ドイツ・フェスト in なんと

2013. 10/13 於：鳴門市ドイツ館

「花は咲く」「別れ」ほか 指揮：大井美弥子 ピアノ：平賀理絵

❖第37回鳴門市芸能祭 2013. 10/27 於：鳴門市文化会館

演奏会に向けて練習中のモーツァルト作曲「ドミニクス・ミサ」からKyrieを初披露。指揮：大井美弥子 ピアノ：平賀理絵

❖コーラス9 第8回演奏会 “スプリング・コンサート”

2014. 3/2 於：鳴門市ドイツ館

1年ぶりとなる演奏会は、第1部はソリストの皆さんによる独唱と重唱。J. シュトラウスの「春の声」はじめ、春の歌づくしで華やかに。第2部は半年かけて練習してきたモーツァルト作曲「ミサ曲 ハ長調 “ドミニクス・ミサ” K. 66」からKyrie、Gloriaです。難しくて2曲しか仕上がっていませんでしたが、それでもたっぷり25分。本番では苦労したフーガの部分がピタッと決まり、合唱団もお客様も感動！これがあるから合唱ってやめられないんですよ。指揮：山田啓明
ソプラノ：佐川理恵子、酒井美里
アルト：梨本真穂 テノール：頃安利秀
バリトン：北村僚真
ピアノ：頃安三紀、平賀理絵、三村加奈
合唱指導：大井美弥子 合唱：コーラス9



合唱って楽しい！ 参加しませんか♪ Chorus9

ニューイヤーコンサートに向け、大井美弥子先生の指導で、充実した練習が始まっています。地域行事にも参加し、鳴門第九をアピールしましょう。

..... コーラス9 第9回演奏会

2015. 1/12(月・祝) 14:00~ 於：大塚ヴェガホール
(予定) 問合せは浅野 ☎088-686-1296

こしらへた報部

●今年も全員無事に本番を終えることができ、ほっとしています。リハーサルでは調子悪くなる人が続出しても、本番は不思議と大丈夫なんですね。きっと、ベートーヴェン様が見守ってくれているのでしょう。

●2013年11月3日、亀井俊明氏が旭日小綬章を受章されました。誠におめでとうございます。受章記念祝賀会に第九を歌ったのは言うまでもありません♪

●とても仲が良かった今年のソリスト。4人と思ってたら、実は5人だったそう

です。おめでとうございます。

(広報委員一同)

→舞台では神々しいソリストさんも気さくな素顔を見せる交流会

